

夏季遠征・福島県 桧枝岐村

資料作成 原田

〈概要〉

クワガタ好きにはたまらない、夢の虫、オオクワガタ。植物保護研究部にクワガタ好きが現れてしまったからには、オオクワガタを探しに行かない訳がなかった。

オオクワガタに加えて、一般的にはなじみが薄いかもしれないが、ヒメオオクワガタというクワガタまで取れる場所が、福島県あるらしい。2011年3月以来、福島県に行くとなると、身を案じる人が増えたが、その場所の放射能レベルは安全域。その情報を信じて、遠征を決めた。

夏の終わり、8月の初めの合宿を終え、お盆休みが明けた頃、車中泊で3日間。ヒメオオクワガタ・オオクワガタおよび、その他の生物の採集遠征に出向きました。

〈遠征期間〉

2011年8月24日から8月26日

〈遠征先〉

福島県 南会津郡 桧枝岐村

〈遠征者〉

岡宮、北田、田崎、原田

〈遠征あらまし〉

8月24日

早朝、立川駅集合。高速道路にて、移動。

昼、桧枝岐村到着。広沢林道にて最終活動開始。ヒメオオクワガタ、採集できず。

夜、南会津町方面にて灯火採集。オオクワガタ、雄雌、採集。

8月25日

日中、広沢林道。ヒメオオ採集。4匹採集。

夜、灯火採集。オオクワガタ、1匹採集。

8月26日

日中、広沢林道。ヒメオオ採集。4匹採集。

その後、帰路へ。

〈採集・確認生物目録〉

昆虫

カメムシ目

ヘリカメムシ科 ホオヅキカメムシ

ハナカメムシ科 キモンクリハナカメムシ

サシガメ科 トビイロサシガメ

他 トゲカメムシ、アカスジカメムシ、アカスジキンカメムシ、ツノアオカメムシ

ヨコバイ科ミミズク亜科 ミミズク

ハネナガウンカ科 アカハネナガウンカ

コガラシウンカ科 ウチワコガラシウンカ

コガラシアワフキムシ科 コガラシアワフキ

アワフキムシ科 ハマベアワフキ、マルアワフキ、クロアワフキ、シロオビアワフキ、ヒメモンキアワフキ、他

ツノゼミ科 ツノゼミ

甲虫目

ハムシ科 ジンガサハムシ、クビホソハムシの一種、エノキハムシ、ヨモギハムシ、他
ゾウムシ科 コフキゾウムシ、スグリゾウムシ、カツオゾウムシの仲間、他

ジョウカイボン科 アオジョウカイ

コメツキムシ科 ヒゲコメツキ、オオクロナガコメツキ、カバイロコメツキ、
オオナガコメツキ、メスアカキマダラコメツキ

コガネムシ科 ミメトラハナムグリ、オオスジコガネ、ヒメコガネ、
ムネスジコガネ、カブトムシ、他

カミキリムシ科 ホソカミキリ、コブヤハズカミキリ、ヨツスジハナカミキリ、
アトジロサビカミキリ、ウスバカミキリ、クロオオハナカミキリ、
ミヤマカミキリ、シラフヨツボシヒゲカミキリ、シラホシカミキリ、
ナガコマフカミキリ、ハネビロハナカミキリ、ハンノアオカミキリ、ヒゲナガカミキリ、
フタスジハナカミキリ、マルガタハナカミキリ、ルリボシカミキリ

オサムシ科 オオゴミムシ、クロナガオサムシ、オサムシの幼虫

オオキノコムシ科 オオキノコムシ

クワガタムシ科 ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、アカアシクワガタ、
オニクワガタ、ヒメオオクワガタ、オオクワガタ

シデムシ科 ヨツボシモンシデムシ、クロシデムシ

チョウ目

スズメガ科 シモフリスズメ、オオスカシバ

ヤママユガ科 ヤママユガ

シロチョウ科 モンキチョウ

タテハチョウ科 イチモンジチョウ、ミドリヒョウモン、キベリタテハ、ルリタテハ、アカタテハ、クジャクチョウ、ヤマキマダラヒカゲ

他

両生・爬虫類

無尾目

アマガエル科 ニホンアマガエル

アオガエル科 カジカガエル

有鱗目

ナミヘビ科 シロマダラ、ジムグリ

〈おわりに〉

初日に遅刻魔が遅刻している。場所が遠いので、皆「遅刻しては来ないだろう」と思っていたらしいが、遅刻魔はサボリ魔とは違うので、自腹で7000円、電車やってくる途中で参加した。

旅の途中、休憩・睡眠は温泉施設と車内であった。出発前は、「温泉あるなら大丈夫だ」と思っていたが、この遠征では、昼間にヒメオオクワガタを追い、夜は灯火採集でオオクワガタを狙うという、昼夜ぶっ通しの採集計画だったため、休む暇はほとんどなかった。さらに、拠点が増えるので、採集したものを保管する場所も車内になる。ダッシュボード上をシロマダラが這いまわり、オオクワガタが椅子の隙間に逃げ込む。夏の炎天下で死なせないため、なるべく日陰に停車した。その拠点も、旅が3日と続けば、足のにおいがキツイ人も現れて、呼吸の苦しい旅になった。

しかし、その旅の成果は素晴らしいものであった。目的としていたクワガタ2種はもちろん、本州における珍蛇シロマダラの捕獲に続き、アカジムグリの捕獲にも成功した。(しかし、悲しいことに、この後の管理不行届により、アカジムグリは脱走。幻のヘビとなった。)さらに、「オオクワやヒメオオを差し置いて、それが旅の一番の思い出になってしまうのは嫌だ」と言っていた部員に申し訳ないと思いつつ、特筆すべき事柄が一つ。公にはなっていないだろうが、この遠征で、植保は遭難者(?)の第一発見者となっているのだ。

植保の遠征では、採集の神、いや、発見の神がほほ笑むに違いないと感じつつ、この章の最後に、山道の無謀な運転や、三日目の臭すぎる足にも耐え抜き、無事、東京と福岡をつなぐ足となってくれた、遠征の拠点、小さな軽自動車に感謝の意を表したい。ありがとう、またよろしく。